

令和2年度第6回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和3年2月18日（木）18：00～19：00

【場 所】 浜益支所旧議場

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 新年度予算説明資料
- 3) 地域おこし協力隊応募チラシ
- 4) 浜益150年記念事業資料
- 5) ワークーション実証事業資料

【出席者】 9名（14名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	佐藤 晃一	○	委員	水崎 理	
副会長	渡邊 隆之		委員	阿部 ゆかり		委員	寺山 広司	○
委員	岡本 俊介	○	委員	木村 美幸	○	委員	門脇 弥	○
委員	久慈 貞子		委員	赤間 香子	○	委員	羽立 裕子	○
委員	鳴海 翔	○	委員	渡邊 真奈美				

（支 所） 畠中支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）、
（事務局） 佐々木地域振興課長、柿崎主査

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - ① 新年度予算について
 - ② 地域おこし協力隊応募状況について
- 4 協議事項
 - ① 浜益150年記念事業について
 - ② ワークーション実証事業について
 - ③ その他
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

事務局より

本日、新型コロナウイルス対策として、入場時の消毒やマスクの着用等ご協力を頂いております。会議の進行についても時間短縮やマイクの使用、ドアの開放など配慮し、説明員も必要最小数で対応させていただきます。

2 会長あいさつ

【宮田会長】

本日もお忙しいなか、会議にご出席をいただきありがとうございます。

10月15日以来4カ月ぶりの会議となります。まず、昨年4月から取り組んできた移住・定住の件についてであります。皆様いろいろとご心配されていると思います。浜益中学校の新年度の体制についてであります。浜益中学校では4月からの複式学級の導入に向けて既に準備が進められていることと思っております。

また一方では、児童生徒の健全育成に向け、学校と地域住民の連携をより強化しようとするコミュニティスクールの導入を目指す取り組みも始まるようしております。

地域全体の重要なテーマでもある、移住・定住については、これらの推移も見ながらあらためて協議の場を設けたいと考えております。ご理解を頂きたいと思っております。

昨日、加藤市長は約300億円の新年度予算案を定例会に提案しました。これまでの最大の当初予算であります。今日はそのうち、浜益区に関連した予算の概要を事務局より説明を受けたいと思っております。

また、昨年から話し合ってきました、「開村150年記念事業」をはじめ、新年度の主な取り組みについて協議してまいります。

2月に入り、浜からはニシン大漁のニュースも聞こえてまいりました。

資料に添付されておりますが、浜益小学校児童や増毛山道の会などの記事、そして井上優太君など地域おこし協力隊の活躍の様子も紹介されております。

国道の雪も解け始め、三寒四温を繰り返しながら春は確実に近づいて来ております。コロナの状況が落ち着くまでお互い充分注意をして過ごしていきたいと考えています。

今日はどうぞよろしく申し上げます。

3 報告事項

(1) 新年度予算について

【事務局】

資料に基づき順次説明。

ワーケーション事業および浜益150年記念事業については協議事項で説明。

なお、これまで地域自治区振興事業として計上していた「増毛山道トレッキング事業」は、本庁の地方創生推進事業で実施。

(2) 地域おこし協力隊の応募状況について

昨年の12月24日から厚田区と合同で各1名の募集を開始。

本日現在、浜益区には1名応募があり、希望する分野は「食」に関するテーマを希望。

今後の予定については、2月26日で募集を締め切り、書面による1次審査、面接による2次審査を経て採用可否を決定する予定。

(3) その他の報告

【事務局】

両区協力隊が共同で年間の活動を報告するため、パネル展を予定。浜益区は3/16～26まで1階区民ホールで両区の協力隊の活動を展示。

【浜益支所長】

浜益区の教育環境整備・検討について、ご説明します。

昨日の石狩市議会第1回定例会におきまして「平成3年度市政執行方針」及び「教育行政執行方針」が市長、教育長より示されました。

市長からは浜益区内で子供の減少が進むなか、乳幼児から義務教育段階の子育て環境について、より

良い方向性を見い出せるよう検討に着手する、さらに教育長からも同様に教育委員会としても検討を始める旨の方針が示されました。

検討内容として現時点で考えられることといたしまして、乳幼児期では浜益保育園でのゼロ歳児保育の実施に伴う園舎などの環境整備。また、義務教育期小中学校期では、児童・生徒の減少に伴う教育環境への懸念という事で、普通学級複式化に伴う教員・事務職員の減による影響、さらに、昭和51年に建築されて築44年経過し老朽化が進んでいる、浜益小学校校舎の課題があります。

また、この地域は津波浸水区域等の災害危険区域内に所在している等の他にも、色々な検討課題があるものと考えますが、それらを踏まえ、浜益区内の教育環境の向上のため、幼児期から中学生までの教育を見据えた整備検討を保護者や地域の方々とは今後進めながら、より良い教育環境の方向性を見出していくこととなります。

昨年からは地域協議会でも「浜益中学校の生徒数減少による複式化」に危機感を持ち「移住・定住」をテーマに児童・生徒を増やす方策を議論してきました。

地域協議会の委員の方には、昨年までの議論も踏まえ、今後の「浜益区の教育環境整備」について、ご意見等をお寄せいただくなどし、地域が一体となって、子供たちの教育環境向上のため検討を進めることとなりますので、よろしく願いいたします。

地域協議会の委員の方にも色々のご意見を伺うこともあると思いますので、よろしく願いしたいと思えます。

【宮田会長】

ただいま事務局からは新年度予算の概要と地域おこし協力隊の応募の状況、支所長からは教育環境について説明がありました。

それぞれ確認したい点ありますでしょうか？

【門脇委員】

保育園から中学校までの間、何年頃の整備を予定していますか？

【畠中支所長】

保育園も含めてどういう形態がいいのか。例えば厚田区のような環境の進め方がいいのか。そのようなことを議論したなかで地域の人と方向性をまとめあげ、市の方でそれに見合う予算付けなどをして進めていきたいと考えています。

【門脇委員】

浜益はもう方向性は出ていると思います。ただ、まだ動いていない状況にあるというのが本音ではないか？方向的にはもうその方がいいと思っているというのをよく耳にします。

【畠中支所長】

そういった意見をまとめていきたいと思っています。

これまでは具体的にどういう方向で進めるというのが届いていなかったもので、その議論をしっかりとしたなかで、厚田のような保育から中学までの義務教育学校の形態がいいのか、その辺を議論し皆さんの意見をまとめて、市の教育委員会へ方向性を示していきたい。

【門脇委員】

これは急いだほうがいい話しだと思います。以前から話題になっていて、今更と捉えていることあるので急いで進めた方がいいと思います。

建設は10年後かもしれないが、内容は煮詰めていかないと。

【畠中支所長】

なるべく早く進めたいと考えています。

保育も0歳児を受け入れるためには、今の場所では厳しいことや、小学校の老朽化が厳しいなども踏まえて検討を進めていきたい。

厚田の場合は複数の小学校が統合になりましたが、浜益の場合は小中1校ずつですから方向性としては早いかと私も考えていますので、意見がまとまり次第進めたいと考えております。

各小中学校のPTAの意見も統一したなかでまとめていきたい。

学校にも協力してもらい、PTA総会などでも議論していただきたいと考えています。

【門脇委員】

浜益小学校は老朽化だし、津波対策で建てられないことがわかっていて、修繕の予算もつかないということですよ？

【畠中支所長】

現状の場所で建て替えというのは無理だと思います。

【門脇委員】

そういう事を説明していき、中学校側にも、今ある中学校にどういうふうに小学校を移すのがいいか、中学校との話し合いが一番大事だと思います。中学校の先生方の意見が一番大事だと思います。

【畠中支所長】

例えば中学校に併設するなど色々な考え方があると思います。皆さんの意見をまとめて教育委員会へあげていこうと考えています。

【門脇委員】

ゼロから話し合うとまとまらないので、ある程度の決め事を提案した方が決まりやすいと思います。

【畠中支所長】

ご意見伺ったので、会議など開くなかである程度示し、なるべく早く議論がまとまるように進めます。

【門脇委員】

それと、子供の人数が減る、複式になるからといって先生が減らされると、親にしても生徒にしても困る。決めるのは道教委かもしれませんが、地元住民と市の方から要望してほしいという気持ちもあります。

【畠中支所長】

詳しくは私もわかりませんが、教育委員会の担当を呼んで、例えば厚田区がどのような形で進めたのかを聞きながら、地域で検討委員会や視察・見学などしながら進めたい。

【宮田会長】

関連ですが、この話を進めていくうえで主体となる組織は別な検討委員会のような形ですか？

【事務局】

今後、支所の我々はもちろんのこと、教育員会の関係部署や保育担当など、それぞれの担当が集まってこの課題についてどう進めていくか話し合いながら、地元の皆さんにも色々意見を伺いながら進めていきたいと考えています。

具体的な組織というより、本庁と支所と連携して進めていきたいと考えています。

説明会の開催等決まりましたら、地域協議会も含めてPTAや地元の方にお知らせしながら進めていきます。具体的にどういう機関が立ち上がるというのは未定ですが、連携しながら進めていきますのでご理解願います。

【宮田会長】

この件につきましては、厚田学園を見るたびに浜益にもというイメージを持っている人が多くいると思います。

将来的なイメージとして、私は厚田学園をイメージしていますが、まずは区民の意見集約が大事ということで、大方は賛成だと門脇委員からも意見がありましたので、確実なもの確かめながらできるだけ早く進めていただきたい。

4 協議事項

【事務局】

(1) 浜益 150 年記念事業について

今年、浜益が開村から 150 周年を迎えることから、子供からお年寄りまで、幅広い世代の交流の拠点として、浜益コミセンきらり横の広場に遊具を設置したいと考えております。

あわせて、浜益のシンボル「黄金山」を 1/150 に縮小した築山を造成して、この広場のシンボルにしたいと思います。

前回の説明で遊具は「天然木」を考えていたのですが、設置後の管理につきまして、市の公園管理担当で維持管理していただくため、劣化などリスクが厳しいということで、木粉と樹脂を混ぜ合わせた「合成木材」製品にすることとなり、事業費を増額しております。

このほか、この記念広場のオープンセレモニーの開催や、浜益の歴史を後世に残していくために、過去の広報はまます掲載記事から「主な出来事」をピックアップした「浜益の歩みの記録」や、平成 7 年度版から 27 年間発行を続けております「村民・区民カレンダー」から、懐かしの一枚やコメントを保存・公開するような事業も進めたいと思います。

これらの記念事業につきましては、地域協議会からの選抜委員のほか、関係団体にも参加いただいて構成する実行委員会を作って、ご意見を聞きながら進めていきたいと考えております。

(2) ワークेशन実証事業について

遊休施設となっている適沢コミュニティセンター（旧カフェ・ガル）を新年度からワークेशन実証事業の拠点施設として活用することになりました。

それに合わせて、かねてから紹介していた「カフェスト」も今年 4 月下旬からオープンを予定しております。

このワークेशनですが、「非日常の土地で仕事を行うことで、生産性や心の健康を高め、より良いワークスタイル、ライフスタイルを実施することができる 1 つの手段」と言われております。

もともとは、ワーク（仕事）とバケーション（観光休暇）の造語ですが、日本では、単なる「観光型」のワークेशनだけでなく、企業の「研修」や「福利厚生」、地域貢献をセットにした「地域課題解決型」など様々な型が提唱されています。

また、近年のコロナ禍においては、都市部で働く方々に非常に注目されている「働き方改革」の一つでもあります。

浜益は、札幌からわずか 1 時間半、圧倒的な大自然、食の宝庫ですから、都会の喧騒を離れて美味しい空気、恵まれた環境の中で、ゆったりとした時間を過ごしていただいて、リモートワークが中心ですがアウトドア体験、農業や漁業などの作業体験などもしていただければと考えています。

また、そのような体験や地元との意見交換・交流の中から、高齢化、人口減少、人手不足など浜益が抱える、地域課題の解決のヒントなどももらえたら良いと考えています。

さらに、この「ワークेशन」で浜益の地を訪れたことをきっかけに、ここの良さを知る人が増えて、将来の「移住」ですとか「2 地域居住」「2 拠点居住」などの促進につながっていけば、大変喜ばしいことと思っております。

そういう意味で実証事業として新年度進めていきます。

なお、カフェストについては、週末限定の喫茶コーナーです。こちらは区民の方にも一般の方にも気軽に利用していただける施設ですので、以前の「カフェ・ガル」のような食事の提供までは予定していないということですが、コーヒーや紅茶、お菓子などを用意することですので、是非利用していただければと思います。

今後、事業の実施に関して個別に相談・依頼することもあるので、協力をお願いしたいと思います。

【宮田会長】

2 つの事業について説明がありました。

まず、150 年事業について確認したいこと、疑問点ございましたらどうぞ。

～ 意見なし ～

なければ実行委員会のメンバーを選出したいと思います。どのような方法がよろしいでしょうか？

～ 事務局一任の声 ～

【事務局】

事務局案といたしまして、副会長の渡辺隆之委員、岡本委員、鳴海委員、渡辺真奈美委員、羽立委員この5名の方に関わっていただきたいと考えております。

～ 関係委員了承 ～

【宮田会長】

それではこの5名に具体的な内容について検討に取り掛かっていただきたいと思います。

2点目のワーケーション実証事業についてですけれども、なかなか横文字が多くわかりづらいかと思っております。ご質問ございませんか？

【事務局】

補足としてご説明します。資料には書いていませんが、石狩湾新港にデータセンターという施設を構えているさくらインターネット㈱さんから、地域貢献したいというお話があり、支所にも声がかかり、やはりこういう地域なので「人との交流を深めたい」と提案をしました。

去年の5月ぐらいから話し合いを進めてきており、その時に「ワーケーション」というのが一つ上がっておりました。

社員の方が、大体一週間ぐらい浜益に滞在します。基本的には9時から5時までは「リモートワーク」をします。本社は大阪で東京は支店ですけれども、ほぼ100%リモートワークなんです。

どこでも仕事ができるので、この際、眺めも良く空気も澄んでいる浜益で仕事をしながら、夜や土日の空いている時間は山や海に遊びに行ってみたり、果樹園で作業を手伝ってみたり、農業の手伝いしてみたり、漁業の手伝いしてみるなどを体験してもらって、浜益で色々な経験をしてもらいたいという事業です。

また、IT企業なので、全国各地でやられているITで省力化など、浜益の農業・漁業・観光などで、ITを利用すると省力化されこんな効果が期待できる、というようなものを提案いただけただけなら、休息のために来るだけではなくて付加価値もついていいのではないかと、それを実験的にやってみようという事業です。

6月から11月ぐらいまでの6か月間に、月に1組か2組か1回に2～3人を想定し、来ていただいて、日中のリモートワークの滞在拠点は旧カフェ・ガルの建物、そして宿泊は、エゾロックさんが元の職員住宅で「浜益ベース」というのを構えているので、その空き部屋などを利用して滞在してもらおうということを考えています。

区内でエゾロックさんを見かけることが多くなっているかも知れませんが、浜益の自然や農業などの部分で関わっていただいております。エゾロックさんはそのような分野でコーディネーター力がありますので、この事業にも参画してもらい、我々は地元の良さを提供し、さくらインターネットさんは社員を送り込む、エゾロックさんは現地浜益で色々案内役を務める、そのような役割をやってみようとしています。

浜益の実証が厚田、石狩も含めて全市的に広がると全体の移住施策、移住はなかなかハードルが高いとは思いますが、いわゆる関係人口を積み上げていく、そういう取り組みのきっかけになればと考えています。

～ 意見なし ～

5 その他

【事務局】

(1) 元厚田区地域おこし協力隊今野博之さんの石狩縦断コンサートツアーについてお知らせ

【門脇委員】

(2) スクールバスの乗降について

悪天候時、帰りは家の前で降ろしてくれるのに、行くときはバス停でしか乗れない。吹雪いている時にバス停まで親が送迎するのであれば、スクールバスの意味がないと感じています。家の前で乗車はできませんか？

【開発課長】

基本的にはバス停留所に停車して乗降してもらうのが基本となっています。

ただ先週今週と悪天候があり、バス停は厳しいというご意見だと思っております。

そういう場合は事前に市民生活課にご連絡を頂き、支所からドライバーに伝達し、なるべく負担にならないように検討したいと思っております。

【門脇委員】

この浜益という地域で、どうしても役所を通さなければいけないのか？

吹雪の状況は常に変わるので、運転手の判断で対応できませんか？

【開発課長】

私の方からドライバーへお伝えします。

【宮田会長】

150年記念事業の担当になられた委員の皆様、くれぐれもよろしくお願ひいたします。

支所長から説明があった、教育環境の整備については、区民にとって非常に関心の高い話題だと思ひます。是非、早めに地元の意見を集約していただき、できるだけ早く進められるように支所・本所含めてよろしくお願ひいたします。

これまで浜益中学校の生徒数減少から移住・定住についてなど話し合ってきました。地元といたしましては究極のテーマであります。

これからも基幹産業の振興も含めて移住・定住について真剣に議論していきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

6 次回の開催日程について

コロナの状況も踏まえ、3月の開催は未定です。後日改めてご連絡します。

7 閉 会

令和3年3月1日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉